



三和タジマ株式会社・集合写真

ぶぎん若手経営塾 企業見学会 開催

2月6日（水）、ぶぎん若手経営塾「企業見学会」を実施しました。この見学会は、ぶぎん地域経済研究所が次世代の経営者および経営幹部の育成を目的とする「ぶぎん若手経営塾」の平成30年度の第4講として開催したものです。

座学研修にとどまらず、企業活動の現場を訪問することで、実践的な学びの機会を提供しようとするものです。今回は、入間郡毛呂山町にある「三和タジマ株式会社埼玉工場」と、幸手市の「高田製薬株式会社幸手工場」の2つの生産現場を視察しました。

三和タジマ株式会社埼玉工場を視察

JR 埼京線・川越駅に集合した一行22人は、最初の見学先で建築用金属製品を生産する三和タジマ株式会社埼玉工場へ向かいました。同社は2018年6月に創業100年を迎えた企業で、日本初の西洋建築金物を製造したわが国の建築用金属製品のパイオニアとして知られています。埼玉工場では、ステンレスをはじめアルミニウム、チタン、銅合金など様々な金属素材を使い、建物の“顔”となるカーテンウォールやモニュメントを製作しています。製品や技術の信頼性だけではなく、デザインの独創性や顧客の意匠を具現化する技術が求められる分野で、匠の技を間近に見学できる機会となりました。

到着後、まず管理センターの小林氏から同社のビジネスモデルと工場の概要説明を受けました。その後、早速、工場内へ移動。最初に六本木ヒルズの正面エントランスに設置されていた回転扉の動態保存機を見学しました。2004年3月26日に起きた男子小学生が回転扉に挟まれて亡くなる事故を教訓とするため、同社は3月26日を“安全を誓う日”とし、社員研修や啓蒙活動を行っています。当時の状態で保存された回転扉の前で、事故当時の状況や設備の



仕様などの説明を受けた後、参加者全員が回転扉を通過する体験をしました。

次に同社が手掛けた過去の代表的な製作物が展示されているギャラリーを訪ねました。国会議事堂に飾られている伊藤博文初代総理大臣の銅像や日本橋三越本店に飾られ三越のシンボルとして親しまれているライオン像など、いずれも貴重な製作物が一堂に集められた場所で、その優れたデザイン性や芸術性に参加者一同、感心を示しました。

続いて、同社の新商品を見学しました。建物のガラス面全体に文字や画像などの投影が可能な業界初のフロント組込型サイン「EcoLEDa（エコレダ）」や、高さ10メートル、重量800キログラムの巨大サイズながら指1本で動かせるスライドドアなどが紹介され、芸術性と技術力の両輪を追求する同社の経営を実感することができました。



三和タジマ株式会社・説明風景

タテ、ヨコの位置を1つ1つ確認して金属を切断する作業を行っていました。この作業は同社で取り扱う製品の多くが一品モノであるため自動化生産が難しいこともあり、ベテランの職人が1つ1つの作品を丁寧に製作する“匠の技”に参加者一同、真剣な表情で説明を聞きました。

最新鋭の生産技術でジェネリック医薬品を生産する高田製薬株式会社幸手工場

三和タジマ株式会社を後にした一行は、途中、昼食休憩を挟んで、午後から幸手市にある高田製薬株式会社幸手工場を訪問しました。同社は1895年に都内で創業された医薬品メーカーで、1964年に生産拠点を大宮市（現、さいたま市）に移転、2016年には本社も同市内に移転しました。現在はジェネリック医薬品を柱とする医療用医薬品を扱っています。ジェネリック医薬品は、特許の切れた医薬品の効能等を変えずに生産する薬ですが、同社は小児科領域の薬の製剤開発を得意としていて、例えば「ドライシロップ」の生産では、子供が苦みを感じないように“いちご味”に味付けするなど独自の工夫をしています。

高田製薬では、同一の有効性や安全性を維持するために、商品の開発から生産、販売までを一貫して行っており、今回、訪問した幸手工場は2014年5月に完成した内服固形製剤専用の最新設備を持つ同社のフラッグシップ工場です。敷地面積は1万2800平方メートル、鉄筋コンクリート造5階建て



三和タジマ株式会社・伊藤博文像

その後、ステンレス建具の製造ラインに移動しました。設計図に基づいて原料の加工から出荷までの一連の作業を行う工程で、まず原料となる金属を板状に切断加工するシャーリングと呼ばれる作業を見学、次に切断された板を巨大な鍛圧機械で成形加工します。作業員の方が手際よく機械を操作すると、いとも簡単に金属板が所用の形状に加工されていきました。また、機械加工が難しいR曲げ加工と呼ばれる特殊な形状の加工作業では、大工工事の墨出し（位置を決めること）作業の様に、作業員が設計図面を見ながら人間の目で

で、敷地内には物流センターも併設されています。

到着後、一行は最初に同社の事業と工場紹介のビデオを視聴し、直江浩取締役コーポレート本部長から会社と事業の説明を受けました。その後、2班に分かれて工場見学を行いました。最初に見学した造粒・乾燥工程では、原料倉庫からコンピュータの指示に従ってクリーンルームに必要な原料が搬送されて造粒、乾燥する様子を、見学コースに設けられたモニターや窓越しに見学しました。また、原材料・製品倉庫は高さ 30 メートルの吹き抜けの自動倉庫で、人の手を借りずに作業が進む様子に驚かされました。次の混合工程では、一度に 200 キログラムまでの容量をバッチ処理できる装置が複数台設置されていて、混合された粉末状の薬は打錠工程で最大 2 トンの圧力をかけて成形されます。さらに、製品をフィルムコーティングして検査工程にまわしますが、検査工程では、異物混入を防ぐために、わずか 50 ミクロン（1 ミクロンは 1,000 分の 1 ミリメートル）の大きさの異物でも除去できる機械を使って、1 時間あたり 20 万錠の検査が可能という説明に、参加者一同、熱心に耳を傾けていました。錠剤の場合、年間 20 億錠、顆粒剤は年間 600 トンの生産能力に加えて、幸手工場では、工程ごとに製造室が設けられるなど厳格な管理体制のもと、製品が作られており、あらためて、同社の品質管理の高さに感心させられました。



高田製薬株式会社・説明風景

株式会社ひびき 日疋社長の講演会開催

高田製薬株式会社幸手工場を後にした一行は一路、大宮にある老舗料亭、「新道山家」へと向かいました。こちらでは東松山市に本店を構え、“みそだれやきとり”として知られる「やきとりひびき」の創業者で、株式会社ひびきの日疋好春社長の講演が行われました。父親の背負った借金を返すために、裸一貫で事業を興し、様々な苦難を乗り越えながら、地元、東松山市の名物、“みそだれやきとり”にこだわり続けてきた日疋社長の話に参加者全員が真剣に耳を傾けていました。

終了後は日疋社長も交えて懇親会を開催し、参加者同士の積極的な交流が行われました。



高田製薬株式会社・集合写真

平成 30 年度 ぶぎん若手経営塾 第 4 講 「企業見学会」 行程表

09:30	集合 川越駅西口ウエスタ川越前
10:20	「三和タジマ株式会社」埼玉工場到着 2 グループに分かれて見学・説明
12:00	昼食
14:00	「高田製薬株式会社」幸手工場到着 2 グループに分かれて説明・見学
16:50	大宮「新道山家」到着
17:00	「株式会社ひびき」日疋社長講演会
18:00	交流会
19:40	交流会終了 大宮駅にて解散



講演

苦難の人生を乗り越えて、 自慢の焼き鳥づくりにこだわり続ける

株式会社ひびき 代表取締役社長 日足 好春氏



講演会風景

父の借金が人生を変える

私の祖父は東松山で養鶏・養豚業を営み、自分のところで肉を加工して近隣の居酒屋や焼き鳥屋に焼き鳥を提供する商売をしていました。私が高校3年の夏、祖母が亡くなったのですが、突然暴力団がやってきて葬式をめちゃくちゃにされました。取引先の焼き鳥屋が倒産し、父が連帯保証人になっていて、その借金を返せということでした。その日を境に私の生活は一変しました。

何とか高校は卒業させて貰いましたが、卒業前に父から「毎月、家に100万入れてくれ」と言われました。オマエも少しは家のことを考えるという意味で言ったのかもしれませんが、アルバイトや会社員では、とても毎月100万の収入を得られるわけがなく、何か商売をしようと思いました。

FM NACK5 がちょうど開局し、そこへ行ってみようと思いました。訪れた時たまたま、現在会長をされている益子さんにお会いすることができ、何か仕事があったらと言っていると「いいよ」と言って下さいました。小間使いをさせて頂き、一生懸命、雑用をやらせて貰ううちに NACK5 から商売を紹介して頂けるようになりました。

20歳になった時、資本金300万で有限会社を設立しました。NACK5 から紹介頂いた企業と本格的に取引をしたいと考えてのことでしたが、取引先に挨拶に出向くと困った顔をされました。今までは仮払い精算の様な形で対応していたものが口座開設が必要になり大変だと言われました。支払いも6か月後になりました。こちらは運転資金も何もなく、親がかぶった借金を返すために、日銭を稼ぐのが目的なのに、目の前の運転資金に困ってしまいました。

ある日、東京から、パン屋のフランチャイズをやらなにかという話を頂き、興味はありませんでしたが、日銭が入ってくると分かりパン屋を始めることにしました。

資金調達で苦難を極める

店の開店資金が必要になり、銀行で制度融資のパンフレットを見つけて相談したところ予備審査をすることになりました。相手は「だいたい大丈夫です」と言うので、キッチンと審査してほしいと言うと、「本審査には不動産契約書と、工務店への受発注書を持ってきてください」と言われました。これはもう、引き下がれなくなってしまうので困ったなと思いましたが、工務店には銀行からだいたい大丈夫と言われているので、すみませんが何とかやってくださいと頼みました。頭金なしで仕事を見積もりしてもらい、受発注書を組みました。早速、銀行に融資の申し込みに行きましたら、翌日電話があり「ゼロ円です」と言う。父親が被った借金の中に保証協会付きのものが混ざっていて、その返済がされていないので、身内である自分の会社にも保証できないのが理由でした。

工務店への支払いに困り、どうしようか困り果てていると、毎日家にやってくる暴力団から「金貸してあげるよ」と声を掛けられました。条件は傷害保険に入ることでした。悩んだ挙句、彼らが受取人になり左手に傷害保険を掛けました。それが私の初めての資金調達でした。とにかく何とかして生きていかなければなりませんでした。

週末だけテントで焼き鳥屋を始める

ある時、西武鉄道から駅ビルに家賃が入るような企画を考えて欲しいと言われ、うまいもの大会を企画しました。ところが大会3日前にブースが1つキャンセルになり、時間もないのでうちの焼き鳥をやろうと思い、「本場東松山名物」と自分で看板を書きました。7日間のイベントは盛況に終わりましたが、それを本川越の商店街の方々が見ていて、「商店街で場所を貸してあげるから、土日だけやりなよ」と言って頂き

ました。今度はテントで焼き鳥を販売し始めました。すると暴力団が会社の銀行口座に仮差押えをかけてきました。訴状の中身は全くのデタラメでしたが、銀行口座が凍結され身動きが取れない。訴訟には供託金700万が必要でしたが、それが用意できない。今度こそ駄目かなと思いました。

商工会議所の仲間に相談したところ、ある方が「商工会議所の経営指導員に相談しよう」と言って頂き紹介を受けました。指導員に事情を説明すると、小規模事業者経営改善資金を使いましょうという話になりました。わずか2週間で審査が通り、満額が支払われました。無事に裁判が終わり報告を兼ねて、商工会議所へ行きました。指導員の方からは、日頃会合で顔を合わせて、どんなことを考えているのか普段から聞いていたし、テントで商いをしている姿も見ていたので、この人はいま手を貸せば、ものになるかもしれないと思える限りのことをさせて貰ったと言って頂きました。

裁判の資金で借りた550万を元手に3坪ですがお店に開くことになりました。保証協会に出向き、埼玉でしか出せない味の焼き鳥を大宮駅で名物として売りたいと訴えたところ、ある小さな金額を父の名義で払えば審査するとさせて頂きました。祖母が亡くなり丸々10年かかりました。私は焼き鳥を見るのも、触るのも嫌でしたが、不思議なご縁で焼き鳥をまたやらせて頂いております。地元の皆さまに拾って頂き、育てて頂いている会社なので、地元の名物をつくり、地元の子どもたちが自信を持って生きていけるような、そんな町づくりに少しでも役に立てるような会社になりたいと考えながら、今年で30年目を迎えました。

最後までご清聴いただきまして、どうもありがとうございます。